

2025 年度 星薬科大学同窓会神奈川県支部

研修会のご案内

(星薬科大学 (G11) 認定単位対象講座)



同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃から支部同窓会活動にご理解、ご協力を戴きありがとうございます。2025 年度の同窓会神奈川県支部の研修会・総会・懇談会のご案内をします。研修会は星薬科大学で長きにわたりご教鞭をとられ、新薬の開発などの研究に精力的に取り組まれております亀井淳三先生を講師にお迎えし、「新規末梢性鎮咳薬」についてご講演いただきます。**本研修会は卒業生・在学生の皆さまが参加できる開かれた研修会です。**大学での学びや旧交を温め親睦を深める機会となりましたら幸いです。お誘い合わせの上、多くの方のご参加をお待ちしています。

演題 慢性咳嗽に対する治療薬の適正使用に関する基礎研究からの提言

－新規末梢性鎮咳薬 Gefapixiant (LEFNUA[®]) の作用機序を中心に－

講師 亀井 淳三先生 (S52 年度卒)

星薬科大学名誉教授 順天堂大学薬学部薬物治療学研究室 特任教授

日 時：2025 年 6 月 8 日 (日) 13:00～14:30 受付 12:30～

会 場：星薬科大学百年記念館 C21/22 教室

受講料：無料 (認定単位取得料：同窓会会員無料・非会員 1,000 円)

認定薬剤師認定単位：1 単位

* 第 29 回星薬科大学同窓会神奈川県支部総会・懇談会のご案内 *

総 会：14:40～14:50 研修会終了後支部総会を開催 (年会費の徴収はありません)

懇談会：15:00～16:30 場所：新星館 1 階 ステラ (学生食堂)

参加費：3,000 円 (2008 年 3 月以降、卒業の同窓生及び在学生の参加費は 1,000 円)

★懇談会は事前申込をいただきますと、全ての同窓生・在学生の方がご参加頂けます。

申込期限 5 月 16 日 (金)

申込は右の QR コード又は次の URL より、申込フォームへお願いします。

<https://forms.gle/AfCCZ5fRtY4YjmD49> (申込フォーム URL)

申込フォームが使用できない場合は次のメールでご連絡下さい。

メールアドレス：hoshiyakukanagawa1995@gmail.com

申込必要情報：①氏名 ②卒業年度 ③神奈川県在住・在勤・以外の区分④参加パート (研修会・総会・懇談会) ⑤研修会参加の場合単位取得 (要・不要) ⑥所属 ⑦連絡先など

★ご不明な点は上記のメールで同窓会神奈川県支部 磯田 (S55 年) までお問い合わせ下さい。

主催：星薬科大学同窓会神奈川県支部 認定共催：星薬科大学薬剤師生涯学習支援室



申込フォームの QR コード

演題抄録

慢性咳嗽を訴えて医療機関を受診する患者が増加していることから、患者・医療者側共に咳嗽に関する関心が高まって来ている。現在臨床現場で広く使用されている鎮咳薬はジドロコデインのような中枢性鎮咳薬しかなかった。中枢性鎮咳薬は咳反射の共通経路を遮断するため、本来止めてはならない咳も止めてしまう危険性を持つとともに、慢性咳嗽に対する有効性は乏しい。

慢性咳嗽の病態として咳喘息やアトピー咳嗽などの病態が知られているが、その直接的な原因として、「咳過敏症候群」の存在が提唱されている。咳過敏症候群は、「様々な疾患や原因がトリガーとなり、低レベルの刺激でも咳が発生する症候群」、いわゆる咳感受性が亢進した病態群と定義されている。咳反射は気道上に存在する咳受容体が気道の炎症、異物の侵入や痰などの貯留物により刺激され、その刺激が舌咽神経や上喉頭神経などの A δ 線維を含む求心性神経を介して、延髄脳幹部の呼吸中枢にある咳中枢に伝えられ、その反射として生じる急激な胸腔内圧の上昇に伴う強力な呼気努力である。咳刺激を中枢へ伝える神経線維は、主として A δ 線維で、その終末には咳受容体として咳の刺激を受容する rapidly adapting receptors (RARs) が存在する。RARs は気道上皮においては粘液などの機械的刺激や酸やアンモニアなどの化学的刺激を受容する。RARs は気道平滑筋にも存在し、気道平滑筋の収縮により刺激され、咳嗽反射を惹起する。したがって、咳感受性の亢進した慢性咳嗽の生理機序を知るには、咳感受性調節にとって重要な A δ 線維および RARs の興奮性調節機序の解明が必要であった。

演者は咳感受性亢進機序を明らかにするなかで、ATP 及びその受容体であるイオンチャンネル内蔵型プリン作動性 P2X3 受容体が重要な役割を果たしていることを見出し、その知見が新規末梢性咳嗽治療薬の開発につながった。

本研修会では、鎮咳薬の適正使用を考えるため、急性咳嗽に対して広く使用される中枢性鎮咳薬の作用機序を解説するとともに、慢性咳嗽に対する新規末梢性咳嗽治療薬であるイオンチャンネル内蔵型プリン作動性 P2X3 受容体選択的拮抗薬のゲーファピキサントの作用機序を解説したい。

